



株式会社 IMAGICA 麻布十番スタジオ

東京・麻布十番にあるポストプロダクション「株式会社 IMAGICA 麻布十番スタジオ」が2013年、一部リニューアルを実施した。そして新たに開設されたMAルームの中心機材として導入されたのが、「ヤマハ」のDAWシステム「Nuage」だ。「Nuendo」を核に、コントロール・サーフェース「Nuage Master / Nuage Fader」、入出力ユニット「Nuage I/O」、オーディオ・カード「Dante Accelerator」、シンクロナイザー「Nuendo SyncStation」、DSPエンジン「DME64N」といったコンポーネント群で構成される「Nuage」システムは、伝統的なコンソール・スタイルで「Nuendo」をオペレーションできる新世代のDAWとして、世界中のポストプロダクションの現場から注目を集めているシステムである。そこで本誌では、今回のリニューアルのコンセプトと「Nuage」システムの導入理由／使い勝手について、株式会社 IMAGICA の村越宏之氏、鈴木博之氏に話を伺ってみた。

CMを手がける3拠点でDAWをNuendoに更新

—— このスタジオでは主にどのようなコンテンツを手がけられているのですか？

村越 「麻布十番スタジオ」では主にCMのポストプロダクション作業を受注していて、主なクライアントはCMを制作しているプロダクション様や広告代理店様です。具体的には、ここで手がけている仕事の8～9割はCMです。

もちろんテレビCMが一番多いですが、最近ではWeb用のCM等も増えています。残りの1～2割は企業VPだったり、CMプロダクションが制作するCMではない映像です。ここ「麻布十番スタジオ」に限って言えば、いわゆる番組を手がけるのは皆無に等しいです。弊社では現在、五反田にある「東京映像センター」と「銀座7丁目スタジオ」、そしてこの「麻布十番スタジオ」の3つの拠点でCMを制作しています。この3つの拠点では、ミキサーもエディターも比較的頻繁に行き来して

いて、シームレスに機能している感じですよ。

—— その3つの拠点の中では、この「麻布十番スタジオ」が一番新しいのですか？

村越 そうですね。最初は「東京映像センター」だけでCMの仕事を受注していましたが、増え続ける仕事に対応するために1997年に「銀座7丁目スタジオ」を開設しました。大手広告代理店様の本社が築地にあったので、その近くということで銀座に。そして2005年、さらに



「株式会社 IMAGICA 麻布十番スタジオ」に導入された「Nuage」システム。32 フェーダー仕様で、向かって左から「Nuage Fader」、「Nuage Workspace (SMALL)」(純正のブランク・ユニット)、「Nuage Master」、「Nuage Fader」というコンポーネント構成になっている。各コンポーネントが置かれたデスクは、特注品とのこと。ホスト・コンピューターは Windows プラットホームの「Hewlett-Packard HP Z820 Workstation」で(マシン・ルームに設置)、同じ「Hewlett-Packard」社製の24インチ・モニター・ディスプレイ「HP Z24i」が3面設置されている

麻布十番に新しい拠点を開設しました。規模的には、CM 以外の仕事も手がけている「東京映像センター」が一番大きくて、「銀座7丁目スタジオ」と「麻布十番スタジオ」は、若干「銀座7丁目スタジオ」の方が大きいです。MA ルームに関しては、どちらも2部屋体制です、オンライン編集室も5部屋で同じですが、2012年にオフラインの編集室を「銀座7丁目スタジオ」に集約して4部屋体制です。

—— CM を手がける3つの拠点は、人が行き来することも多いとのことですが、機材は揃えているのですか？

村越 はい。中心となる機材は大体揃えています。具体的には、少し前までメインの DAW は「Fairlight」社のもので、最初は「MFX3+」、その後は「Dream Satellite」を使用していました。これはすべてのスタジオ共通で、データはどこでも開けるようにしていました。そして、コンソールは基本的に「Solid State Logic」社のもので、「Avant」や「C 200」、「Duality」と、機種はいろいろなんですけど、同じ SSL で統一しています。「SSL」の

コンソールが使える人であれば、どれも扱うことはできるので。サブの DAW として「Avid ProTools」システムもあります。メインの DAW として「Fairlight」を使ってきたのは、やはり専用機ならではの安心感があったからです。実際、動作も安定していましたし、何かトラブルが生じた際は「フェアラ



コントロール・ルームの左側に用意されているナレーション録り用ブース面

イトジャパン」1社に問い合わせればいいというのも良かったです。突っ込んだコンピューターの知識も必要ありませんから。

—— そんな「Fairlight」を先頃、「Steinberg Nuendo」に更新されたそうですね。

村越 2011年くらいから、CM 仕事を手がける3拠点、「東京映像センター」、「銀座7丁目スタジオ」、「麻布十番スタジオ」の「Fairlight」をそろそろ更新した方がいいんじゃないかという話が出始めました。「Fairlight」も「CC-1」で Windows プラットホームに移行していて、「Dream Satellite」は世代的にも古くなっていましたし、そろそろ更新のタイミングなんじゃないかと。それで MA スタッフ全員で、「Fairlight」の新しいシステムに更新するか、それとも「ProTools」のようなコンピューター・ベースの DAW に入れ替えるか、時間をかけて協議しました。その結果、「Nuendo」がベストな選択肢なんじゃないかということになり、2012年末から2013年初頭にかけて順次更新しました。現在は3拠点で「Nuendo」をメイン DAW として使用しています。

—— 選択肢としては、「Fairlight CC-1」、「ProTools」、「Nuendo」の3択という感じだったのでしょうか？

村越 大きくはその3つですね。個人的には「Merging Pyramix」も興味があったんですけど(笑)、日本では CM の世界であまり使われてないこともあって、「Fairlight CC-1」、「ProTools」、「Nuendo」の3機種が選択肢でした。



スタジオの壁面。音響設計は株式会社アコースティックエンジニアリング、施工は有限会社安田テクニカルビルドが担当した

—— 「Nuendo」 選定の決め手となったのは？

村越 CMを手がけていない拠点を含め、弊社ではこれまで「Nuendo」の導入実績はありませんでした。だから詳しいことは誰も知らなかったわけですが、選定にあたってじっくり触って見たところ、想像以上に良かったんです。操作の自由度が非常に高く、1本のオーディオ・トラックに複数のオーディオを重ねて配置できたりと、「Fairlight」に近い使い勝手の良さがありました。比較的后発のDAWだけあって、「Pro Tools」が苦手としている部分を流暢にこなせたりとか。とは言っても、「Pro Tools」や「Fairlight CC-1」も、CM作業をするには十分な性能を持ったDAWだとは思っていますよ。だから大きな差があるわけではなく、最終的には好みの問題という感じでした。

麻布十番スタジオの新設のMAルームには Nuage システム導入

—— そして昨年開設された新しいMAルームには「Nuage」システムが導入されていますね。

村越 ここは元々テレビシネの部屋だったんです。しかしテレビシネよりもMAの方が需要が高くなったので、改装して2013年7月からMAルームとして稼働させています。ですからこれで「麻布十番スタジオ」も「銀座7丁目スタジオ」同様、MAルームが2部屋体制になりました。



株式会社 IMAGICA の 村越宏之氏



- ① 「Nuage」システムに向かって右側には、アシスタント用のモニター・ディスプレイとキーボード/マウスが設置されている
- ② モニター・スピーカーは「ヤマハ NS-10M STUDIO」と「Genelec 8020CPM」。「NS-10M STUDIO」は、パワー・アンプ「Amcron StudioReference II」で駆動されている



- ③ 「Nuage」システムの左下に設置されているラック。上から「アドギア KZ-912R」(KZ-912)用のリモート・コントロール・ユニット)、「Neve33609/J」、アナログ・パッチベイ、「デノン DNF450R」(オーディオ・レコーダー)
- ④ 「Nuage」システムの奥には、VUメーター、「ヤマキ YLM-ND01T」(ラウドネス・メーター)、「DK-Technologies MSD100」(マスター・ステレオ・ディスプレイ)が置かれている

「Nuage」システムを最初に見たのは2011年のInter BEEで、“遂に「Nuendo」にも「Avid ICON」システムのような本格的なコントロール・サーフェースが登場したか”とかなり興味を持ったんですけど、当時はまだCMの世界ではin-box mixというのはあまり多くありませんでした。番組の世界ではけっこう「ICON」システムを導入しているスタジオがあって、皆さん便利に使っているのは知っていたんですが、CMのスタジオは外部からエンジニアさんがやって来ることも結構あるので、

誰もが使えるコンソールを置くというのが暗黙の了解としてあったんです。でも個人的な好みは別として、改訂作業があるCMの世界こそin-box mixに移行すべきなのではないかと考えていて、それはきっとクライアントにとっても喜ばれることなのではないかと思っていたんですよ。そこで今回、MAルームを増やすにあたって、これまでのようにコンソールを導入することも考えたんですが、「Nuage」システムを導入して、この部屋はin-box mixに移行してしまうのがいいんじゃないかと。それにこの部屋はそんなに広くないので、大きなコンソールは入れられないという物理的な制約もあったんです。仮に大きなコンソールがギリギリ入ったとしても、それは音響的にあまり良くないんじゃないかとも思いましたし。ですからこのスタジオのコンセプトは、“CMをin-box mixで”なんです。

—— 導入された「Nuage」システムの構成についておしえてください。



株式会社 IMAGICA の 鈴木博之氏

村越 サーフェースは「Nuage



手慣れた様子で「Nuage」システムをオペレーションする村越氏

Master」と「Nuage Fader」を2台組み合わせた32フェーダー仕様で、コンピューターはWindowsプラットフォームの「Hewlett-Packard HP Z820 Workstation」です。コンピューターには、オーディオカードとして「Dante Accelerator」がインストールしてあります。「Nuendo」はバージョン6ですね。「Nuage」の対応がバージョン6からということで、サーフェスを設置しているデスクは、「Nuage」のデザインに合わせて特注で製作してもらいました。

—— もう導入されて約1年とのことですが、使い勝手はいかがですか？

村越 これは「Nuage」システムの大きな特徴だと思うんですけど、マルチ・ディスプレイなので抜群に視認性が良いですよ。今回導入した「Nuage」システムは3画面仕様で、エディット画面、ミキサー画面、プラグインのウィンドウなどを一気に確認することができるんです。画面を切り替えることなく、ここまで俯瞰できるというのは、やっぱり素晴らしいですよ。これは「Avid ICON」システムなどには無い「Nuage」システムならではの特徵だと思っています。ただ、普通にディスプレイを設置し

てしまうと、ちょっと高すぎるんですよ（笑）。

だからここでは、ディスプレイの下部を少しコンソールに隠す感じで設置しています。こういった自由なレイアウトは、サーフェスに液晶ディスプレイが内蔵されているものだと思ってしまうんですが、「Nuage」システムならば自由に配置することができる。ディスプレイに表示されているのはソフトウェアのウィンドウなので、リサイズも自由です。鈴木 やっぱりフェーダーがあると安心できますね。15秒のCMであればキーボードとマウスだけで済ませてしまうことも少なくな

てしまう、ちょっと高すぎるんですよ（笑）。



コントロール・ルームに用意された「Nuage I/O 16A」。アナログ16ch入出力のモデル

いんですけど、企業VPなど4～5分あるいは10分くらいの尺の作品を手がけることもあるので、それくらいの尺になるとキーボードとマウスだけで細かく操作するのは大変。やっぱりフェーダーを使って直感的に出来た方がいいですよ。どちらか一辺倒というわけではなく、仕事の内容によってキーボード／マウスとフェーダーを上手く使い分けています。

—— フェーダーやスイッチなどの操作感はいかがですか？

村越 この価格帯のコンソールとしては良好な操作感に仕上がっていると思います。フェーダーやスイッチの操作感というのは、どうしても価格相応になってしまうというか、高価なものはやっぱり良いです。でも今の時代、フェーダー1本50万円、32chで1,600万円と言われても、本当にペイで





マシン・ルームに設置された「Nuendo SyncStation」と3台の「Nuage I/O 16D」。1台でデジタル16ch入出力という仕様で、コントロール・ルーム設置の「Nuage I/O」を加えると計64ch入出力。Danteのデジタル・オーディオ伝送によって、ホスト・コンピューターや「DME64N」とのルーティングを実現している

できるのかという話になるわけじゃないですか。頑張ってそういうコンソールを導入したとして、操作するミキサーはハッピーでも会社はハッピーじゃないというか(笑)。その点「Nuage」システムは、DAWを中心に据えたコントロールサーフェースとしては納得のいく価格ですし、フェーダーやスイッチなどの操作感は価格以上のものに仕上がっていると思います。ぼくがフェーダーやスイッチに対して操作感以上に重視したのは、耐久性というか堅牢性ですね。こういう仕事をやっていると、ある操作子が突然動かなくなってしまうというのが本当に怖いんです。だから「Nuage」システムを導入する前に、「ヤマハ」の方にしつこくその点を確認したんですが(笑)、担当者いわく、MAの現場でガシガシに使われることを考慮して、フェーダーやスイッチはかなり耐久性の高いものを搭載したと。まだ導入して1年程度なので何とも言えないですが、今のところはまったく問題ないですね。これは余談ですが「ヤマハ」ってSR製品のリーディング・メーカーですよ。SR用コンソールって本当に過酷な現場で使われていると思います。移動も多いですね。そういう市場で評価される製品を長年送り出してきたメーカー製というのは、やっぱり安心感があります。



マシン・ルームに設置されたヤマハ「DME64N」。EQ処理以外に、外部機器との連携や、モニター、コミュニケーション機能追加といった、「Nuage」のシステム拡張の役割も果たしている

実際のところはどうか分かりませんが、そういう世界で培われてきた高い耐久性を実現するノウハウが、こういうプロダクション用サーフェースにも活かされているのかなと勝手に想像しています。

—— これまではコンソールとDAWを組み合わせて作業されてき

たわけですが、改めて in-box mix はいかがですか？

村越 個人的には in-box mix よりも、スタジオ・システムとしてより自由度の高いコンソール・ミックスの方が好きなんです。1マシン・システムの場合、そのマシンに不具合が出てしまうとスタジオじゃなくなって、ただの部屋になってしまう。以前はよく言われていた“コンソールの音”というのも大切なことだと思っています。「SSLの音」とか「NEVEの音」とか。

鈴木 でも、今となっては in-box mixの方がいいですね。コンソール・ミックスも直感的に操作できていいと思うんですけど、CMの仕事は後での改訂作業が多いので。in-box mixですと、「Nuendo」のプロジェクト・ファイルを開けば、前の状態が再現されるわけですから。



株式会社 IMAGICA 麻布十番スタジオ
東京都港区麻布十番 1-10-10 ジュール A 6F
Tel : 03-5549-1491
<http://www.imagica.com/>